令和4年 上半期
火災・救急統計

松山市消防局

目　　次

第１　火災の概況 ―― 1

１　火災件数 ―― 1
２　火災による損害 ―― 1
３　死傷者数 ―― 1
４　出火原因別の火災発生状況 ―― 2
５　損害額 ―― 3
６　近年の火災状況 ―― 3
７　地区別の件数 ―― 4
８　地区別件数の推移 ―― 5
９　住宅用火災警報器の奏功事例 ―― 6

第２　救急の概況 ―― 7

１　救急出動件数・搬送人員の状況 ―― 7
２　医療機関別搬送状況 ―― 8
３　事故種別・傷病程度別搬送人員の状況 ―― 8
４　応急処置実施状況 ―― 9
５　地区別救急発生状況 ―― 10

火　災

第１　火災の概況

令和４年上半期（１月～６月）の火災概況は、火災件数７６件、損害額９，２３０万５千円、死者５人、負傷者１４人となっています。

１　火災件数

令和４年上半期（１月～６月）の火災件数は７６件で、前年同期（６０件）と比べて１６件増加しています。

（▲は減少）

		令和4年	令和3年	前年同期比
火災件数		76	60	16
種別	建物火災	54	40	14
	（住宅火災）	(31)	(25)	(6)
	車両火災	2	5	▲ 3
	林野火災	1	3	▲ 2
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	19	12	7

※その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

２　火災による損害

令和４年上半期（１月～６月）の火災による損害の状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

		令和4年	令和3年	前年同期比
焼損棟数	合計	82	62	20
	全焼	15	13	2
	半焼	1	4	▲ 3
	部分焼	20	12	8
	ぼや	46	33	13
り災世帯数		63	47	16
建物焼損床面積（㎡）		1,583	2,066	▲ 483
建物焼損表面積（㎡）		378	210	168
林野焼損面積　（ａ）		1	6	▲ 5
損害額（千円）		92,305	117,739	▲ 25,434

３　死傷者数

令和４年上半期（１月～６月）の火災による死者は５人で、前年同期（２人）と比べて３人増加しています。また、火災による負傷者は１４人で、前年同期（２８人）と比べて１４人減少しています。

（▲は減少）

	令和4年	令和3年	前年同期比
死者	5	2	3
負傷者	14	28	▲ 14

４　出火原因別の火災発生状況

令和４年上半期(１月～６月)の火災７６件を出火原因別にみますと、「たき火」と「たばこ」が１３件（１７．１％）、「こんろ」が６件（７．９％）となっています。

また、「放火火災」は５件で全体の６．６％を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

（▲は減少）

	令和4年	令和3年	前年同期比
たき火	13	12	1
たばこ	13	6	7
こんろ	6	6	0
ストーブ	4	5	▲ 1
放火	4	2	2
電気機器	4	2	2
電灯・電話等の配線	3	4	▲ 1
電気装置	2	1	1
風呂かまど	2	0	2
放火の疑い	1	4	▲ 3
配線器具	1	2	▲ 1
灯火	1	2	▲ 1
煙突・煙道	1	1	0
マッチ・ライター	1	1	0
排気管	1	0	1
衝突の火花	1	0	1
火入れ	1	0	1
焼却炉	0	1	▲ 1
内燃機関	0	1	▲ 1
火あそび	0	1	▲ 1
その他	8	4	4
不明・調査中	9	5	4
合計	76	60	16

５　損害額

令和４年上半期（１月～６月）の火災による損害額は９，２３０万５千円で、前年同期（１億１，７７３万９千円）と比べて２，５４３万４千円減少しています。

（▲は減少）

	令和4年（千円）	令和3年（千円）	前年同期比（千円）
損害額	92,305	117,739	▲ 25,434
建物	91,187	113,578	▲ 22,391
車両	770	3,975	▲ 3,205
船舶	0	0	0
林野	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	348	186	162
爆発	0	0	0

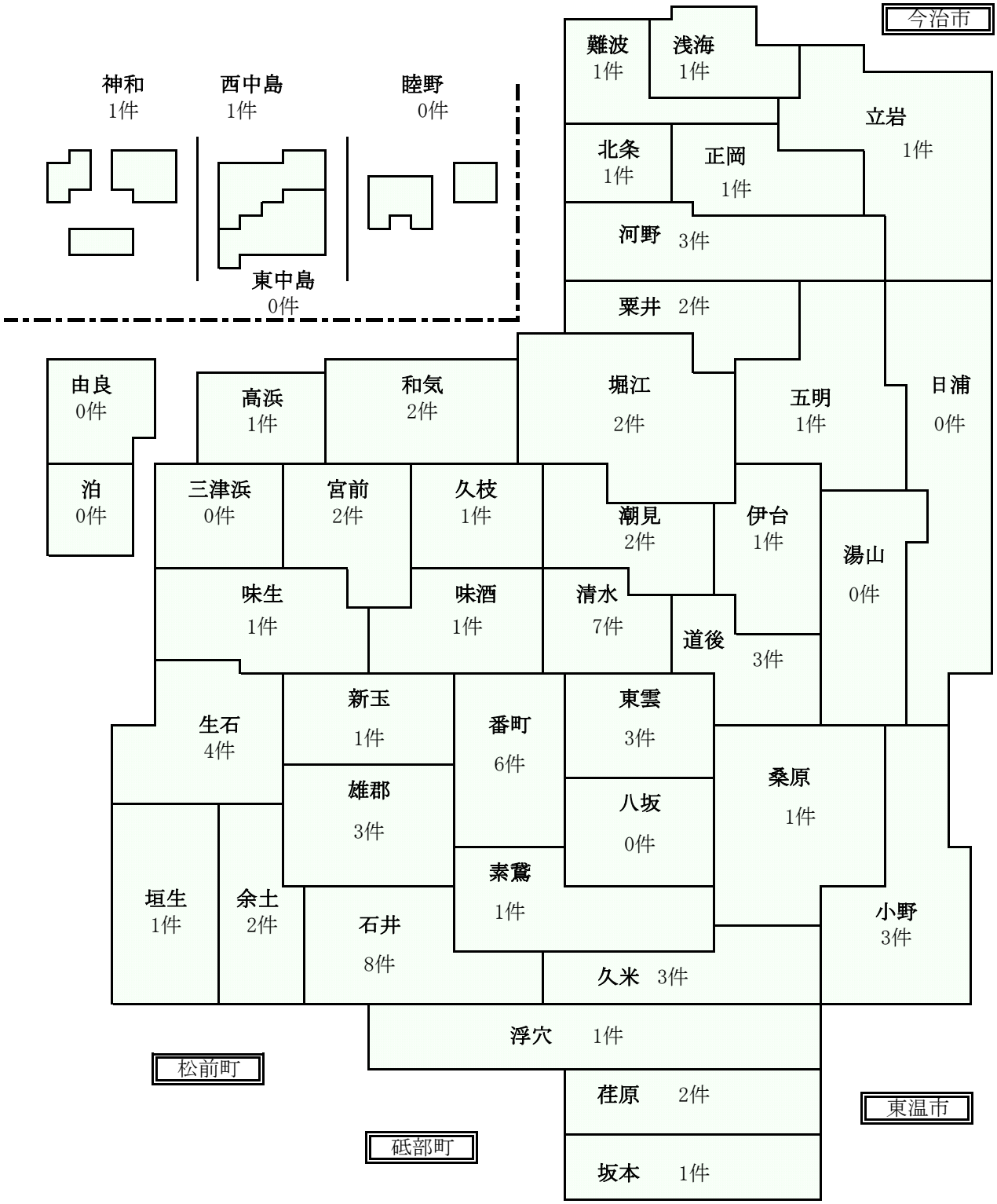
６　近年の火災状況

近年の上半期（１月～６月）の火災状況は次表のとおりです。

	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平均
火災件数（件）	76	60	49	72	61	63.6
焼損棟数（棟）	82	62	61	73	75	70.6
死者（人）	5	2	6	5	5	4.6
負傷者（人）	14	28	10	10	14	15.2
り災世帯数（世帯）	63	47	45	51	39	49.0
り災人員（人）	128	87	98	119	84	103.2
損害額（千円）	92,305	117,739	102,808	64,162	64,753	88,353

7　地区別の件数

火災件数を地区別にみると、石井が８件で最も多く、次いで清水が７件、番町が６件となっています。



8 地区別件数の推移

（各年上半期）

	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
番町	**6**	1	1	2	3
東雲	**3**	3	2	2	1
八坂	**0**	2	1	1	1
素鷲	**1**	3	3	3	1
雄郡	**3**	3	4	1	2
新玉	**1**	1	1	1	3
味酒	**1**	1	1	1	2
清水	**7**	0	3	5	4
桑原	**1**	0	2	4	0
道後	**3**	1	2	2	5
味生	**1**	2	2	4	2
生石	**4**	2	0	7	3
垣生	**1**	0	1	0	1
宮前	**2**	0	1	2	2
三津浜	**0**	0	1	0	0
高浜	**1**	3	0	2	4
久枝	**1**	2	1	4	2
潮見	**2**	6	2	2	1
和気	**2**	3	1	3	2
堀江	**2**	2	0	4	1
余土	**2**	3	2	2	1
由良	**0**	1	0	0	0
泊	**0**	1	0	0	1
久米	**3**	2	1	1	1
湯山	**0**	0	2	0	0
日浦	**0**	1	0	0	0
伊台	**1**	2	0	0	1
五明	**1**	0	2	0	0
小野	**3**	4	1	1	4
浮穴	**1**	1	2	1	1
石井	**8**	4	5	5	6
荏原	**2**	1	2	3	1
坂本	**1**	0	0	1	1
浅海	**1**	2	1	0	0
立岩	**1**	0	0	2	0
難波	**1**	1	1	2	1
正岡	**1**	0	0	2	0
北条	**1**	0	0	0	0
河野	**3**	0	0	0	0
粟井	**2**	2	1	1	3
睦野	**0**	0	0	0	0
東中島	**0**	0	0	1	0
西中島	**1**	0	0	0	0
神和	**1**	0	0	0	0
合計	**76**	60	49	72	61

※松山市基準地区（４４地区）

９　住宅用火災警報器の奏功事例（令和４年上半期）

【事例１】警備員が駆けつけ、早期の通報につながった事例

共同住宅の一室で、警備会社に自動通報する住宅用火災警報器が作動し、駆けつけた警備員が火災を発見、１１９番通報を行った。

【事例２】近隣住民が警報音に気づき、初期消火に成功した事例

警報音に気づいた近隣住民が、ほかの近隣住民と協力して火災を発見。初期消火に成功し、被害を最小限に食い止めた。

【事例３】近隣住民が警報音に気づき、早期の発見、通報を行った事例①

警報音に気づいた近隣住民が巡回中の警察官と協力して火災を発見し、１１９番通報を行った。

【事例４】近隣住民が警報音に気づき、早期の発見、通報を行った事例②

警報音に気づいた近隣住民が周囲を確認したところ、住宅から煙が出ているのを発見し、１１９番通報を行った。発見が早かったため、消防隊の到着も早く、被害を最小限に食い止めることができた。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。また、初期消火には粉末消火器が有効です。
日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

住宅用火災警報器は、古くなると電池切れや、故障する可能性があります。日頃から正常に作動するか確認し、10年を目安に交換を検討してください。
作動確認や設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

救　急

第２　救急の概況

松山市の令和４年上半期（１～６月）の救急出動件数は１３，２８０件、搬送人員は１２，２２０人で、前年同期と比較し出動件数・搬送人員ともに増加しています。

これは、一日平均７３．４件、約１９分３８秒に１回の割合で救急車が出動し、市民約４１人に１人の割合で搬送されたことになります。

１　救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この４種別だけで、出動件数・搬送人員とも全体の約９６～９８％を占めています。

（▲は減少）

区分		単位	令和4年	構成比（%）	令和3年	構成比（%）	増減
出動件数		件	13,280	100.0	11,637	100.0	1,643
内訳	火災		55	0.4	63	0.5	▲ 8
	自然		0	0.0	0	0.0	0
	水難		13	0.1	10	0.1	3
	交通		982	7.4	857	7.4	125
	労災		69	0.5	82	0.7	▲ 13
	運動		64	0.5	77	0.7	▲ 13
	一般		1,879	14.1	1,660	14.3	219
	加害		41	0.3	44	0.4	▲ 3
	自損		126	0.9	103	0.9	23
	急病		8,232	62.0	7,008	60.2	1,224
	転院		1,655	12.5	1,537	13.2	118
	その他		164	1.2	196	1.7	▲ 32
搬送件数		件	12,158	－	10,654	－	1,504
搬送人員		人	12,220	100.0	10,739	100.0	1,481
内訳	火災		11	0.1	26	0.2	▲ 15
	自然		0	0.0	0	0.0	0
	水難		4	0.0	4	0.0	0
	交通		931	7.6	811	7.6	120
	労災		69	0.6	81	0.8	▲ 12
	運動		65	0.5	80	0.7	▲ 15
	一般		1,786	14.6	1,573	14.6	213
	加害		36	0.3	42	0.4	▲ 6
	自損		85	0.7	66	0.6	19
	急病		7,586	62.1	6,528	60.8	1,058
	転院		1,646	13.5	1,528	14.2	118
	その他		1	0.0	0	0.0	1
出動平均（1日）		件	73.4		64.3		
出動間隔			19分38秒		22分24秒		

（注1）　出動平均については、前年比1日あたり約10件増加しています。

（注2）　出動間隔については、前年比2分46秒短くなっています。

（注3）　構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

２　医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関１１，１８８人（９１．６％）、その他の医療機関１，０３２人（８．４％）、その他の場所０人となっており、救急医療機関へ搬送する割合が多いです。

事故種別等 / 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	7,014	896	1,690	1,588	11,188
その他の医療機関	572	35	96	329	1,032
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	7,586	931	1,786	1,917	12,220

（注） 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関。

３　事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡１７５人（１．４％）、重症４８４人（４．０％）、中等症４，７７６人（３９．１％）、軽症６，７８４人（５５．５％）となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	1	0	2	4	0	0	24	0	4	139	1	175
重症	1	0	0	17	3	0	42	0	9	285	127	484
中等症	3	0	0	102	18	7	563	4	22	2,566	1,491	4,776
軽症	6	0	2	808	48	58	1,157	32	50	4,596	27	6,784
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	11	0	4	931	69	65	1,786	36	85	7,586	1,647	12,220

（傷病程度）

死亡　初診時において、死亡が確認されたもの

重症　傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症　傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症　傷病の程度が入院を必要としないもの

その他　搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

４　応急処置実施状況

救急救命士等が行える救命処置（ラリンゲアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、エピペン投与、ブドウ糖投与）の件数は２０４件（前年１７７件）となっています。

	事故種別 / 応急処置	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
	応急処置対象人員	7,578	930	1,779	1,868	12,155
	止血	30	31	118	18	197
	固定	21	127	153	43	344
	人工呼吸	35	1	5	6	47
Ⅱ	心マッサージ	18	0	7	2	27
Ⅱ	うち自動	11	0	5	1	17
Ⅱ	心肺蘇生	215	3	31	14	263
Ⅱ	うち自動	28	0	5	5	38
	酸素吸入	1,263	13	78	496	1,850
Ⅱ	気道確保	321	9	41	23	394
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	1	0	0	0	1
Ⅱ	うち喉頭鏡･鉗子等	3	0	3	0	6
救	うちラリンゲアルマスク等	54	0	5	1	60
救	うち気管挿管	4	0	4	2	10
	保温	219	16	54	55	344
	被覆	39	246	438	63	786
Ⅱ	在宅療法継続	43	1	4	2	50
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	19	1	0	0	20
救	静脈路確保	43	1	7	2	53
救	うち心肺停止前	10	0	0	1	11
救	うち心肺停止後	33	1	7	1	42
救	薬剤投与	4	1	1	1	7
Ⅱ	血圧測定	7,152	905	1,657	1,759	11,473
Ⅱ	聴診器	848	27	84	65	1,024
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	7,320	918	1,715	1,821	11,774
Ⅱ	心電図	1,871	24	79	251	2,225
救	血糖測定	47	1	0	0	48
救	エピペン投与	1	0	0	0	1
救	ブドウ糖投与	5	0	0	0	5
	その他	7,186	880	1,689	1,724	11,479
	合計	26,700	3,205	6,161	6,345	42,411
	拡大された応急処置等	17,454	1,879	3,569	3,910	26,812
	（うち救命処置）	177	4	17	6	204

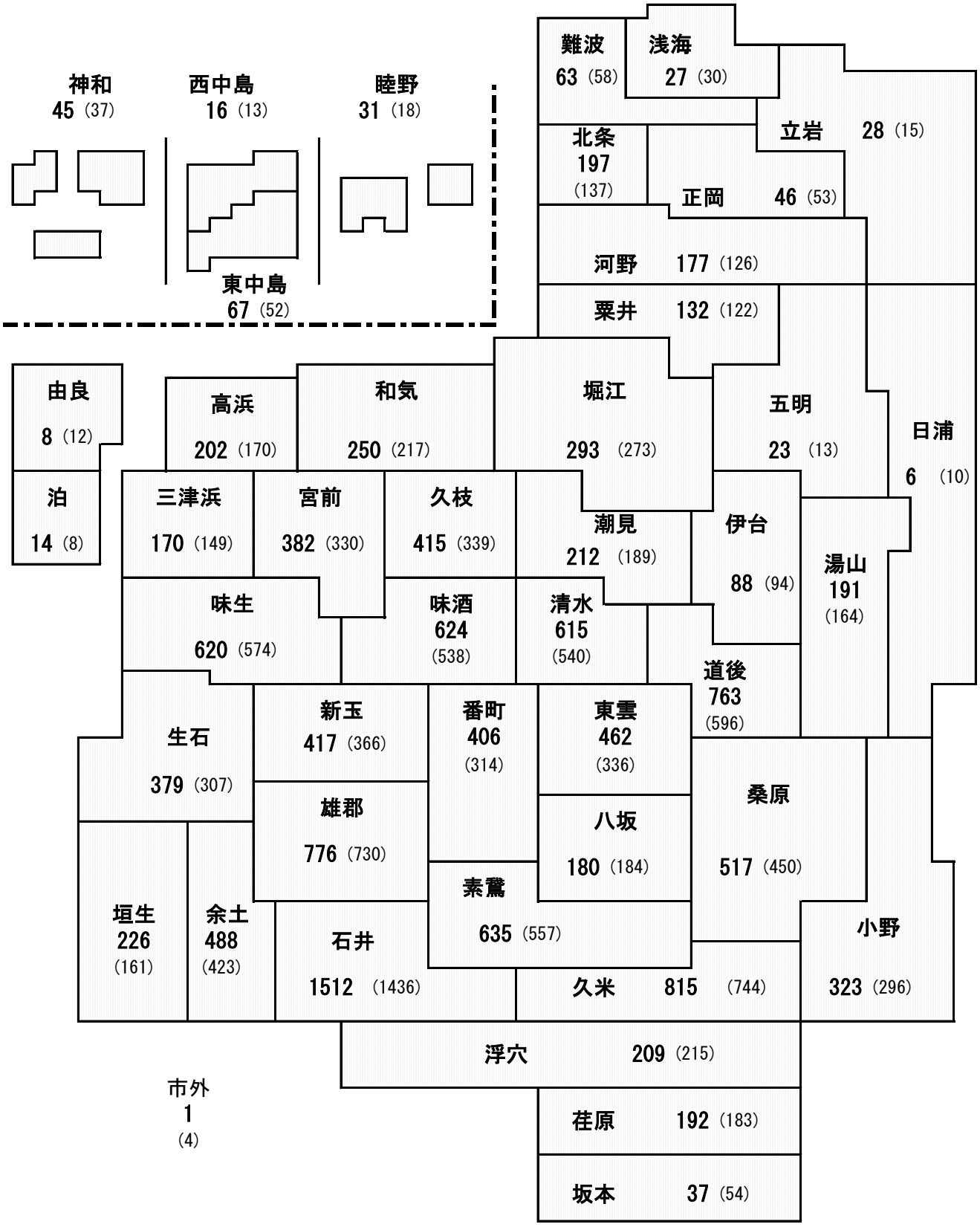
（注1）「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置

（注2）「救」とは、救急救命士が医師の指示で実施可能な救命処置

５　地区別救急発生状況

出動件数１３，２８０件　（前年１１，６３７件）

（　）内は前年同期の発生状況



令和4年　上半期　火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは
松山市消防局予防課
TEL：（089）926-9247　　FAX：（089）926-9163
E-mail：sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは
松山市消防局警防課
TEL：（089）926-9227　　FAX：（089）926-9188
E-mail：sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp